静岡県熱海市で7月に起きた大規模土石流から3日で3カ月。熱海から離れた場所でも被災地を応援しようと、9歳の小学生が路上ライブをしたり、中学生が学校で協力を呼び掛けたりして募金活動した。活動を知った熱海市民は「遠い地域から応援してくれる気持ちがうれしい」と話す。

熱海へ募金 児童生徒奮闘

土石流きょう3カ月 西根中(八幡平市)も協力

岐阜県高山市の小学3年森安ひばりさん(9)は土石流のテレビ映像に衝撃を受け、「被災した人が家や車を買うお金を集めよう」と、4月から習い始めたギターの路上ライブを決意。夏休み中に「私は熱海を助けたいです」と書いた看板を手作りし、近所の駅前やスーパーで弾き語りを続けた。

覚えたての「カントリーロード」や人気アニメ主題歌「紅蓮華」を披露。人前での演奏は初めてでわくわくした。素通りする人ばかりだったが、「大変なのは被災した人たち」とくじけず、そのうちにSNSなどで評判が広がると聴衆も増えた。活動を知り、熱海から訪れた人もいたという。

集めた約8万5千円は日本赤十字社に募金。9月は新型コロナウイルス感染拡大で中断したが、緊急事態宣言が解除され、再開を目指して練習に励む日々だ。「復興した熱海に行って、きれいな海を見てみたい」

八幡平市の西根中で生徒会長を務める3年佐藤茶芽さん(15)は、東日本大震災で家族や家を失った先生の話を聞いた経験から熱海の大変さを想像し、校内で募金を呼び掛けた。偶然、同校の生徒の叔父に、土石流の被災地域で暮らす漁師がいることを知り「役立ちたい思いが強くなった」。募金にはほとんどの生徒が協力した。

この漁師松本早人さん(46)はめいの連絡で活動を知ったといい「温かい気持ちが何よりうれしくて、踏ん張っていける。3カ月がたって住民も少しずつ前を向き始めている」とほほえんだ。

八幡平市の西根中で募金を呼び掛ける生徒ら＝7月（同校提供）

遺族、賠償請求や告訴で責任追及

26人犠牲、1人行方不明

静岡県熱海市で7月に起きた大規模土石流では26人が犠牲になり、いまだ1人が行方不明だ。被災した伊豆山地区の住民や遺族計70人は9月28日、起点となった土地での不適切な盛り土が原因として、土地の現旧所有者などに計約32億円の損害賠償を求めて提訴した。複数の遺族は10月中にも殺人容疑で旧所有者を刑事告訴する方針で、責任追及を目指す。

土石流は7月3日午前10時半ごろ発生。盛り土など計約5万6千立方メートルが崩れ、川沿いに約2キロ下の伊豆山港まで流れ込んだ。